

# 前年度（2022年度）の学校評価

<p>本年度の重点目標</p>	<p>1 100周年（17年後2039年）に向けた魅力ある学校作りを進める          (1) 大同高校 建学の精神「社会に（で）有為な人材の育成」を実践する教育活動の継続          (2) 新学習指導要領の実施と連動した教育内容の充実          (3) 大同高校の将来計画の検討          2 働き方改革の継続          3 ハラスメントのない職場づくり          4 修技館および体育館建替えに向けた準備          5 その他（主に分掌等が中心になって検討・対応）          ① 大同大学進学コースを核とした高大連携の強化→再構築、② 就職における卒業後の定着度（離職率）の調査と改善          ③ 校務支援システム（現行メソフィア）の有効な活用のための検討、④ 2023年度の高校入試日程の変更（私立+公立）と特色入試への対応          ⑤ 国際交流事業の再開、⑥ 朝読のバージョンアップ（ICT機器の活用等）、⑦ カウンセリング体制の再構築、⑧ 内規の見直し・整備</p>		
<p>担当</p>	<p>重点目標</p>	<p>具体的方策</p>	<p>評価結果及び次年度に向けた課題</p>
<p>学習指導部</p>	<p>学力の向上と授業の充実          (1) ベル着の習慣化と授業改善の取り組みを土台とした授業規律の確保          (2) ICT活用の授業実践による学習理解度の向上          (3) 欠課時間数の多い生徒への早期対応と改善に向けた取り組み          (4) 学力不振の生徒への早期対応と改善に向けた取り組み          (5) 転退学者を出さないための早期対応と改善に向けた取り組み</p>	<p>(1) 授業改善のためのフローに沿った改善指導の促進と迅速な対応          (2) 教科ごとによるICT活用促進に向けた授業の実践と教科会議での情報共有          (3) 欠課時間数の多い生徒に対する教科・担任・学年の連携による指導の徹底          (4) 学力不振の生徒に対する教科・担任・学年の連携による指導の徹底          (5) 担任・学年・教科等の連携による細やかな指導と支援体制の構築</p>	<p>■評価結果          (1) 【B】難のある生徒は見受けられたが、学習指導部での注意までは至っていない。          (2) 【A】各科取組が進んでいる。          (3) 【D】各担当での出欠入力が徹底されていなかった。          (4) 【B】追試など含めて行われた          (5) 【D】各担任細かく指導をしていただけたが、コロナの影響も多く休むことへのハードルが非常に低かった。          ■次年度に向けた課題          コロナ禍で不登校傾向の生徒が増え、結果として欠課時間数超過生徒が増えた。健康安全・学年会と連携し対応していきたい。</p>
<p>情操教育部</p>	<p>(1) 学習と部活動、学校行事に集中して取り組み、活力ある学校作りを推進する          ①生活指導（大同三訓の実践）          ②各種委員会の活性化          ③ボランティア活動の活性化</p>	<p>(1) 遅刻指数（総遅刻数/全校生徒数）          【目標】1.0以下          【昨年度】1.4          (2) 第2段階以上の特別指導者数（延べ）          【目標】30名以下          【昨年度】35名</p>	<p>(1)遅刻指数          1.5 【C】 目標1.0          (2)第2段階特別指導者数          28名【A】 目標30名以下          生活習慣の改善を促し、遅刻を減らせるよう担任と連携していきたい。</p>
<p>情操教育部（健康安全）</p>	<p>(1) 環境指導          (2) 環境安全          (3) 健康管理</p>	<p>(1) 環境指導          ①校内・学校周辺環境美化のボランティア活動を行い、奉仕の精神を養う。（1年生LHR利用）          ②授業後の保健美化委員による校内美化活動（手洗い場の清掃）。          授業後のボランティア委員による校内美化活動（ゴミ集積場での分別・記名確認）。          (2) 環境安全          ①防災組織・火元責任者・緊急時対応策などシステムを拡充する。          ②環境安全点検の強化。          (3) 健康管理          ①生徒の健康管理と傷病への迅速な対応を図る。          ②心身ともに健康な人間形成を目指す。</p>	<p>(1)環境指導          ①【A】計画的に実施することが出来た。          ②【C】生徒が係の日を忘れていたことがあるため、次年度は当番の日をロイロノートなどで生徒に知らせることで周知する。          (2)環境安全          ①【A】防災訓練を計画通り実施することが出来た。          ②【C】安全点検を実施報告したクラスは40.2%にとどまった。          (3)健康管理          ①【A】保健室での対応は迅速であった。          ②【B】学校生活アンケートの回答率が85.8%であった。次年度は100%を目指し呼びかけを多くする。</p>
<p>情操教育部（生徒会）</p>	<p>(1) OECD「2030年に向けた生徒エージェンシー」に則った生徒議会・執行委員会・各種委員会活動の自立化（昨年度からの継続課題）          (2) 生徒会を盛り上げる工夫を凝らす          (3) 生徒会役員選挙のさらなる活性化</p>	<p>(1)昨年度と同じ目標となるが、生徒会活動の更なる自立化に向けて課題の継続を行う。生徒自身が本校の現況をみつめ、よりよい学校、よりよい学校生活、地域をはじめとする様々な人々への貢献のあり方などを考え、行動を提案し、実践していくことができるようにしていきたい。          今回の生徒会役員選挙改革によって、自分たち一人ひとりが学校生活を作るという意識がより強く実感できるようになった。これをきっかけに生徒議会、各種委員会の活動をさらに活性化させていきたい。          (2) 地域、社会との関わりを通して大同生としてどのように貢献できるかを考えられるような活動を考え、実行していきたい。また、体育祭や文化祭といった学校行事について、従来の枠組みの見直しを検討し新たな取り組みを生徒に考えさせ、実行していきたい。コロナ禍をむしろチャンスととらえ、学校行事をより主体的な場とできるよう、生徒会一丸となって取り組んでいきたい。          (3)昨年度、生徒会役員選挙改革を実行することができた。まだまだ準備や運営に課題はあるものの、一つ一つ改善していき活発なものにしていきたい。選挙の活性化は、充実した議論の場を確立するために必要不可欠である。ただ単に代表者を選ぶだけではなく、選ばれてから何を実行するか、そこに焦点を充てていきたい。</p>	<p>(1) B（概ね目標に到達できた）          南警察署との合同安全啓発運動やユニセフ・赤い羽根をはじめとする各種募金活動など、地域に貢献する機会を設けることができた。今後も様々な活動を通して、地域貢献のあり方を模索していきたい。          残念ながら、生徒会役員については定数に満たなかった。各種委員会の活動を先導する役割が役員には求められる。自分たちの学校生活について主体的に考え、より良いものにしていくよう、創意工夫を今後模索していきたい。          (2) B（概ね目標に到達できた）          文化祭、体育祭をはじめとする学校行事についてICTを使った発表を採り入れるなど、少しずつ新しい試みにチャレンジしている。学校行事は、生徒が最も主体的に活動できる場である。今後も生徒会や各委員会を中心に、新たな枠組みや取り組みについて考え、積極的に実行していきたい。          (3) C（目標にやや届かなかった）          生徒会役員選挙改革によって、一人ひとりの投票がより意味を持つようになった。そうした環境の下、次は候補者の充実を図りたい。ポスターや街頭演説など、各候補者がどうすれば自分の考えを有権者（本校生徒）にアピールできるか。取り組んでいるが、まだ道半ばである。立候補者が増え、選挙活動がより活性化できるような方策として、日頃の生徒会活動をアピールする方法を検討する必要がある。生徒会の仕事が楽しい、やりがいがあると思ってもらえるよう、広報面でもできることを検討していく。</p>

<p>進路指導部 (進学指導)</p>	<p>(1) キャリア教育の確立 ⇒ 総合的な探求の時間と連動した年間計画と指導方法の確立。 (2) 高大連携の強化 ⇒ 情報交換を密にした高大連携の見直しと立て直しと情報の透明化、推薦規定の抜本の見直し (3) 校内推薦規定の見直し ⇒ 新カリキュラム、評価基準の変化に対応した校内推薦規定の抜本的な見直し ⇒ 大学入試改革により、各学校の入試内容の変化に伴う校内推薦規定の抜本的な見直し (4) オンライン決済システムの周知</p>	<p>(1) 外部講師や外部資料など、様々な媒体を利用しキャリア教育を確立していく。 (2) 高大連携のための情報共有を部内で行い、しっかりと議論する場を設ける。 (3) (2)同様に、情報共有と、議論する場を設ける。 (4) 外部模試の見直しに合わせて、教員が金銭を扱うことの軽減を図る。</p>	<p>(1) B 進路指導部が主導とし、総合的な探求学習の時間にキャリア教育を実施できた。 (2) B 高大の情報共有の礎を確立できたが、その共有方法や高大連携の強化にはまだつながっていない。 (3) B 併設校選抜の推薦基準の見直しには着手できたが、推薦基準全般の見直しには至っていない。 (4) C テスト段階で次年度以降の実施である。</p>
<p>進路指導部 (就職指導)</p>	<p>(1) 一次合格率の向上 (2) 大手企業の合格者数の増加 (3) 「職業観」の育成と「学校斡旋就職者」に対する事前指導 (4) 離職率の低下 (5) 学校斡旋就職率100%の継続 (年内実現) (6) インターンシップの充実</p>	<p>(1) 「学校斡旋就職」に対する事前指導、学年会への情報伝達 (2) 外部講師による「職業講話」、「就職説明会」を通じ、就労意識の向上を図る (3) 就職試験に対する指導 (応募書類作成、筆記、面接、グループディスカッション等) 評価基準と方法</p>	<p>■評価 (1) 就職試験 1次合格率 90.5% (合格89人/受験者95人) (2) 大手企業合格者 製造業3億円,300人 52人/就職者97人 従業員300人以上のみ 73人/就職者97人 (3) 3年度離職率 2016年度卒35.6%→2018年度卒26.6% (4) 学校斡旋就職100% : 2/10に達成 (5) インターンシップ参加人数 2021年度 43人 → 2022年度 65人</p> <p>■次年度に向けた課題 事業所との情報交換を多くし、協力関係を深める。また、共同して取り組めるものを模索していく。特に、地域の事業をとの連携を深める。</p>
<p>総務部</p>	<p>(1) 配信機材を活用することで式典・行事をさらに充実したものにしていく。 (2) PTA行事の新しい形態をPTA役員と連携し確立していく。</p>	<p>(1) 配信機材の操作に長けた教職員からの意見を反映し、協力して取り組む (2) PTA幹事会において積極的に意見交換を図る。</p>	<p>■評価結果 (1) 配信機材を活用した式典(始・終業式等)や行事(PTA総会等)がたいへんスムーズに行えるようになった。【A】 (2) PTA文化祭、PTA研修旅行、PTA大同大学見学会などが3年ぶりに実施されたが、PTA幹事の間で積極的な意見交換がなされ、現状に合わせた行事運営ができた。【A】</p> <p>■次年度に向けた課題 新型コロナウイルス感染症が収束に向かう中で、従来の学校行事、PTA行事の実施の有無や内容・要領を検討し、新しい活動形態を構築していく。</p>
<p>図書研修部</p>	<p>(1) 図書管理システム専用パソコンを使用し、その円滑な運用を図る。 (2) 引き続き、朝の読書の定着と充実を強力に推進する。朝読用図書貸し出しの増加を図る。 (3) 図書室の自習室としての利用促進を図る。 (4) 生徒図書委員会の機能充実を図り、生徒の図書室活用を促進する。 (5) 図書館だより「ライブラリー」の定期的発行を通じ、読書に対する啓発活動を推進する。 (6) 教員の授業等での新聞データベースの活用など、図書室利用の促進を図る。 (7) 教員研修を充実させ、学力と教養ある生徒の育成を図る。 (8) 保護者による授業参観について、より効果的な方法の実施を検討する。</p>	<p>(1) 朝読定着のために、毎朝校舎内を巡回し、生徒・担任へ喚起を促す。また、行事等での中止は極力避ける。 (2) 生徒図書委員による毎昼放課と業後の指導当番を決める。 (3) 新聞のデータベースを利用し、年1回以上図書室での授業実施や、課題など調べ学習実施の促進を働き掛ける。 (4) 経験者研修の5年研、10年研の充実を図る。 (5) 保護者による授業参観は、1・2年生対象11月に、それぞれ自由参観形式で実施する。</p>	<p>(1) 蔵書点検により判明した不明本、廃棄本の処理が適切にできたか。 【A】 (3) 図書館だより「ライブラリー」の定期的発行等により、読書に対する啓発活動を推進できたか。【A】 (4) ①初任者研修の企画・推進はできたか。 【A】 ②経験者研修の企画・推進はできたか。【A】 十分に達成できなかったこと【評価C、D】 (1) 朝の10分間読書の定着を推進できたか。 【C】 (2) 保護者による授業参観について、より効果的な方法で実施できたか。 【C】 (2) 生徒図書委員会の機能充実を図り、生徒の図書室活用を促進できたか。 【C】</p>
<p>工務部</p>	<p>(1) 全員受験における資格検定試験の合格率向上  (2) 社会で通用する国家試験・技能試験等の推進と継続性  (3) 新カリに向けて実習内容の在り方と方向性  (4) 選コースの在り方と方向性</p>	<p>(1) 効果見込める学習方法や終礼テストの内容変更と対策プリント等の活用を目指す。  (2) 周知徹底と学習指導体制・環境の強化、教授側のスキルアップを目指す。まら、外部講師等を通して技能伝承を図る。  (3) 教科書や社会で通用する内容に刷新を目指す。  (4) DU進学コースの希望者減により存続の有無の検討を図る。</p>	<p>(1) 資格検定合格率 旋盤技能検定(M3)・・・73.3% 情報活用試験(HS2)・・・41.1% 色彩検定(S3)・・・45.9% 初級CAD検定(R3)・・・53.4% 計算技術検定(D2)・・・8.3% 情報技術検定(KIH2)・・・43.9%</p> <p>(2) 技能士等の国家試験動向(実施資格) ガス溶接技能講習 フォークリフト運転技能講習 技能検定(旋盤作業) 第2種電気工事士</p> <p>(3) 新カリによる実習内容の変更 2024年度から南館・大学施設使用による内容の変更が必修。SWGで検討中。</p> <p>(4) 選コースの在り方 5コースから機械系コース・選抜コース・電情コースの3コースに変更検討中。</p> <p>(1) 資格検定評価と課題 出題傾向の変更により合格率低下。対応として学年会と連携などを模索する。 (2) 資格挑戦者評価と課題 コンスタントに挑戦する傾向であり結果に繋がっている。受験料高騰による希望者減。 (3) 新カリと移転による課題 大半の実習内容変更と観点別評価の導入によるとらえ方。 (4) 選コースの課題 2024年度入学生からの選択で成績配慮基準と希望性の整合性について検討課題となっている。</p>

情報部	<p>(1) iPad の活用研究(定期更新 PC の代替機としての利用ができるか)</p> <p>(2) 体育館で校内ネットワーク・インターネットの利用</p> <p>(3) 生徒用 iPad の Wi-Fi 利用</p> <p>(4) 古くなったレーザープリンタ(複合機以外)の更新</p> <p>(5) 移動用 PC(ノート・タブレット)のバッテリーの消耗と交換</p>	<p>(1) パソコン室(情報教室 I・II 他)において iPad およびキーボード、マウスを用いて授業が可能か検討する</p> <p>(2) 校舎外の必要箇所での校内ネットワーク・インターネットの利用環境構築を情報室に要望する</p> <p>(3) 学園のネットワーク整備時に、生徒の iPad が Wi-Fi 利用可能な帯域の確保および必要なアカウント数を要望する</p> <p>(4) 投資申請時に古いレーザープリンタの更新を申請する</p> <p>(5) 投資申請時に移動用 PC(ノート・タブレット)のバッテリー費用および交換作業費用を申請する。</p>	<p>■評価結果</p> <p>(1) iPad 活用</p> <p>【B】概ね目標を達成できた 各情報教室で実施される授業の内容から考え、iPad では性能面で 3DCAD 等の利用が難しい、キーボードが必要になるなど、代替としては難しく、定期更新とは別であると考える。</p> <p>(2) 体育館ネットワーク</p> <p>【D】目標を大きく下回った 要望していない。現状新規投資は難しい。</p> <p>(3) 生徒 Wifi</p> <p>【D】目標を大きく下回った 要望していない。現状新規投資は難しい。</p> <p>(4) プリンタ更新</p> <p>【C】目標にやや届かなかった 投資申請を行ったが認められず、古いプリンタの点検に留まった。</p> <p>(5) バッテリー交換</p> <p>【B】概ね目標を達成できた 修理費用として投資申請を行い、認められた。</p>
広報部	<p>(1) 一定の合格基準を堅持し、学則定員 480 名の入学者の確保。 (552→470→508→459→459→475)</p> <p>(2) 推薦入試で 420 名の確保。 (435→374→411→393→387→424)</p> <p>(3) 一般入試志願者 1,500 名の確保。 (1,696→1,606→1,613→1,579→1,545→1,438)</p> <p>(4) 特進 25 名(2021 年度 21 名)、大同大進 90 名(2021 年度 95 名)の確保。</p>	<p>(1) 重点校重視の中学校訪問を展開、春のリーフレット、秋のオープンスクールチラシは生徒全員に配布。</p> <p>(2) 重点校は必ずアポ取り訪問をし、学年主任、進路主事と直接面談をして情報交換に努める。</p> <p>(3) 各担当者は 2020 年度中学校別推薦志願者数の増減を踏まえた上で、目標値を立てて渉外に当たる。</p> <p>(4) 担当者は、他の私学と比較して、本校の長所、短所は何かを客観的に把握し合い、広報活動を行う。</p> <p>(5) 本校進学実績と現状の生徒の報告や、オープンスクールなどで本校の特進クラスの良さをアピールする。</p> <p>(6) 併設校の有利な面を前面に出し、大同大学進学コース及び、文理進学コースの良さをアピールする。</p> <p>(7) 施設の充実と、授業環境の良さをアピールする。</p>	<p>評価結果</p> <p>(1) 入学者 456 名で C</p> <p>(2) 普通科については 231 名(+11)で A 工業科については 152 名(-41)で C 合計数 383 名で B</p> <p>(3) 一般入試志願者 1,698 名(+119)だが 工業科志願者減 407(-79)のため B</p> <p>(4) 特進 27 名、大同大進学 112 名で A</p> <p>次年度にかけた課題</p> <p>(1) 普通科のレベルアップ、工業科については一定の合格基準を堅持し、学則定員 480 名の入学者の確保 (470→508→459→475→517→456)</p> <p>(2) 推薦入試で 420 名の確保 (411→393→387→424→383)</p> <p>(3) 一般入試志願者 1,700 名の確保と前納金入金率 70%の確保 (1,479→1,545→1,438→1,579→1,698) 入金率 (78.1→83.2→80.5→83.4→60.5)</p> <p>(4) 特進 25 名、大同大進学 160 名の確保</p>
普通科第 1 学年	<p>(1) 「挨拶」「身だしなみ」などの基本的な生活習慣を確立させる。</p> <p>(2) 学習習慣を確立し、真剣に取り組み、仲間と学び合う姿勢を養う。</p> <p>(3) 自分で設定した目標に向けて努力し、失敗と経験から自己の生き方について考える力を育成する。</p> <p>(4) 学級全体で教室内の環境整備・美化活動を進め、学習環境を整えることを通じて学級の協力体制を築く。</p>	<p>(1) 日常の声掛け、教室巡回、HR 活動、学年集会などを通じて意識向上を図る。</p> <p>(2) デジタルツールを利用しながら、生徒の取り組み状況を把握しきめ細かい指導を目指す。</p> <p>(3) 総合的な探求の時間やグループワークを含め、様々な問題に興味関心を持ち、他人と協働学習する中で自己の在り方についても意識させる。また、目標の設定・振り返りを様々な場面でを行い、常にゴール実現のために行動できるように促す。</p> <p>(4) HR での継続的な指導により、教室の美化と学習環境整備に学級全体で取り組むことを習慣化させる。</p>	<p>(1) (2) (3) (4)</p> <p>各項目について学年集会や HR にて継続的に指導した。学期ごとに振り返りシートを用いて自己評価を実施した。自分が何を頑張ってきたか、今後何をすべきかの気づきを促した。</p> <p>挨拶、身だしなみ、授業を真剣に受ける、清掃活動の点においては、不十分な生徒もいるものの及第点を与えられる。一方、学習については、日々の授業を受けることが目的となっている生徒も多く、学習習慣定着には程遠い。進路探究ともリンクさせて行動変容を促し、自分自身のゴールへ向けて行動できるようにさせていく必要がある。</p>
工業科第 1 学年	<p>(1) 「朝の読書」の定着化と、「大同三訓」による生活習慣・学習習慣を確立し、高校生活への適応を図る。</p> <p>(2) 資格取得の指導を通じ、持続的に取り組む力を養い、将来への希望を明確化する。</p> <p>(3) 全体で教室内の環境整備・美化活動を進め、学習環境を整えることを通じて学級全体の協力体制を築く。</p> <p>(4) 工業科 1 年生の行動指針を意識した行動を促す。</p> <p>① 元気に挨拶・返事をする事</p> <p>② 服装・身だしなみを整える事</p> <p>③ 真面目に授業・実習に取り組む事</p> <p>④ 1 つでも多くの資格を取得すること</p> <p>⑤ 時間・学校/社会のルールを守ること</p> <p>⑥ 誰にでも感謝の気持ちを忘れないこと</p>	<p>(1) 日常の声かけ、教室巡回、HR、学年集会等を通じ、身だしなみ・挨拶・時間厳守の意識を養う。</p> <p>(2) 家庭での学習習慣定着のために、ロイロノートや Classi など利用しながら、生徒の取り組み状況を把握しきめ細かい指導を目指す。</p> <p>(3) 資格取得への継続的指導体制をつくり、全員受験種目の合格率向上を目指す。</p> <p>(4) 学級活動や学校行事、ボランティア活動等を通じて、学級・学年の団結力を築く。</p> <p>(5) 担任団と協力し基礎学力の向上を目指し生徒をピックアップし継続的に指導していく。</p>	<p>(1) 【B】概ね目標を達成できた</p> <p>(2) 【C】目標にやや届かなかった 総合学習の課題などの提出を長期休み中に行ったが提出状況は差があった。</p> <p>(3) 【B】概ね目標を達成できた 結果はそれぞれであったが、ほとんどの生徒が意欲的に取り組んだ。</p> <p>(4) 【B】概ね目標を達成できた チョコボラなど各クラス意欲的であった。</p> <p>(5) 【C】目標にやや届かなかった 時間的余裕もなくそこまで手が回せていない状況である。</p>

<p>普通科 第2学年</p>	<p>(1) 修学旅行を学びの一助としてとらえ、平和学習を始めとする事前学習を充実させて成功を収める。 (2) 進路に対する意識向上、目標設定の確立を促す。 (3) 学習習慣を身に付け、進路実現のために様々な外部試験や模試を積極的に受験し、好成績を目指す。 (4) 規範意識を高めるとともに、教室内の環境整備と美化に努める。</p>	<p>(1) 学年で役割を分担し、担当者を中心にして計画的に事前学習を進める。 (2) 担任、教科担任、進路指導部と連携し、継続した学習指導を展開する。適宜、進路の情報を学年会にて共有できるようにする。 (3) スタディプログラムや学習動画も利用し家庭学習の定着を目指すとともに、外部模試の重要性を理解させ進路指導部と連携出来る体制を作る。 (4) 総合的な探究の時間を通して、「調べる・まとめる・発表する」力の定着と自他自立から外へと視野を広げる。</p>	<p>(1) 修学旅行後にアンケートを実施してその満足度から判断する。【A】80%以上 (2) 進路目標を設定できている生徒の割合から判断する。75%程度 (3) 外部試験や模試などの結果やその振り返りの取り組み状況から判断する。 (ベネッセテスト基礎学力診断B以上) 【A】20%以上 (追認試験対象者) 【C】20%未満 (4) イエローカード担任指導対象生徒がどれくらいかで判断する。 対象生徒【C】3~5名  定期テストだけではなくベネッセテストへの意識付け、模擬試験も積極的に受験するよう指導した。その結果、学習への意識が高まった生徒が増加し模試受験者が増加した。しかし、特に文理クラスでは定期テストで精一杯の生徒がまだまだ多いのが実情である。そうした生徒への対応を引き続き検討し指導していきたい。 来年度より、いよいよ生徒一人ひとりの進路実現に向けた指導が始まる。学習目標と進路目標の両方を設定させて、生徒が主体的に学習に取り組むことができる環境を整え、全員が第一志望に合格できるよう指導体制を整えたい。</p>
<p>工業科 第2学年</p>	<p>(1) 基本的な生活習慣を基礎とし、社会人での第一歩として身だしなみ・最低限の言動を身に付けさせる。 (2) 資格取得の指導を通じ、持続的に取り組む力を養い、将来への希望を明確化する。 (3) 授業・実習等を通じて、学習環境および作業環境における良い雰囲気作りを徹底する。 (4) 周囲の雰囲気や言動を理解し、各自が自主的に行動し、修学旅行を見据えた集団行動が出来る。</p>	<p>(1) 挨拶、教室巡回、HR、学年集会等を通じて、身だしなみ・時間厳守の意識をより一層高める。 (2) 資格取得への継続的な指導体制をつくり、各受験種目における合格率向上を目指す。 (3) HRでの継続的な指導により、教室の美化と学習環境整備に学級全体で取り組む事を定着させる。 (4) 工業人としての基本的な行動を具体的に生徒へ示し、実践できるように指導していく。 (5) 担任団と協力し基礎学力の向上を目指し生徒をピックアップし継続的に指導していく。</p>	<p>(1) 生活習慣の確立 ・遅刻指数【C】: 1. 29 ・イエローカード(複数枚対象)【D】: 18. 5% (2) 資格取得の合格率 ・危険物取扱者 乙種第4類【C】: 20. 8% ・計算技術検定2級(D)【D】: 8. 6% ・情報技術検定2級(H)【C】: 41. 1% ・情報活用検定3級(S)【C】: 58. 8% (3) 授業態度調査対象者【C】: 5. 5% (4) 学習習慣の確立 ・ベネッセテスト(B以上)【C】: 12. 0% ・追試験対象者【D】: 22. 0% (5) 工業人として人格形成の基礎を作る時期として考慮すると、挨拶・身だしなみでは全体的に意識している生徒が増えている印象を受ける。しかし、時間の扱い方や授業規律・意欲では多くの課題が残っていると思う。 来年度の入試・就職活動に向けて、現在の課題において解決を模索しながら、尽力していく。</p>
<p>普通科 第3学年</p>	<p>(1) 進路目標実現のため、目標設定を明確にし、個に対するきめ細かい進路指導ができる体制をつくる。 (2) 最上級生・成人としての自覚を促し、自己の言動に責任を持たせる。 (3) 社会に貢献できる人材を育成する。</p>	<p>(1) 進路を意識した学習習慣の確率を目指す。 (2) 進路についての調べ学習を徹底させ、明確な目標を持たせるために志望理由書の作成指導を徹底する。 (3) 進路指導部と密に連携を取り、情報交換する。 (4) 基本的な生活習慣の確立を目指し、礼儀や挨拶、時間厳守等の指導を徹底する。 (5) 総合学習やHR・学年集会を通じ、社会との繋がりや自己の使命について考えさせる。</p>	<p>【B】概ね目標を達成できた 【B】総合学習の時間を利用して、志望理由作成指導などきめ細かい指導を行うことができた。 【C】目標にやや届かなかった 【C】進路決定後に生活リズムが乱れ、欠席・遅刻が増えてしまった。 【C】社会に目を向ける姿勢はあるものの自己の使命を考えるまでには至らなかった。</p>
<p>工業科 第3学年</p>	<p>(1) 進路実現に向けて目標を掲げ、具体的な活動を通じて努力させる。 ・就職希望者・・・第1希望の企業内定者向上、就職率100%を確保する。 ・進学希望者・・・大同大学進学をはじめ、希望進学先(大学、専門学校)への進学に向けた自学自習の充実化。 (2) 基本的な生活習慣を確立させ、社会に必要とされる人材となるべく、相応しい身だしなみや言動を身につける。 (3) 最上級生としての自覚と自他の人権を尊重し、健康で安全な生活態度を身につける。</p>	<p>(1) 進路実現において個人の将来の目標を明確にさせた上で、最後まで諦めさせない進路指導、面接指導を徹底する。 (2) 進学希望者は、学年団で協力しながら自学自習の実施を指導し、進学に必要な知識を磨く。 (3) 就職希望者は、工業人としての基本的な行動を具体的に生徒へ示し、実践できるように徹底指導していく。 (4) 改めて朝読を中心に限られた時間を最大限取り組めるよう、短時間集中を徹底させる。 HR、学年集会等を通じて、身だしなみ・時間厳守の意識を徹底する。</p>	<p>(1) 【B】概ね目標を達成できた 特に将来に不安を持つ生徒に対し、じっくり時間をかけて進路開拓に意識を向けた指導を行った。目標が定まった後は努力し進路実現につなげることができた。 就職希望者の内定率...100% (2) 【B】概ね目標を達成できた 行ける進学先ではなく、行きたい進学先のために準備を重ね、概ね進路実現ができた。 (3) 【B】概ね目標を達成できた 企業研究に力を入れ、学科や面接試験に備えて取り組む様子が多く見られた。 (4) 【C】目標にやや届かなかった 進路先決定後は気が緩み、身だしなみが若干乱れた。時間を意識した行動を求めたい。</p>